世

本 市 の人 (昭和46年7月1日現在)

П 総 数 188,682人 男 917人 女 96,765人

906世帯

数

甲府市議会だよ

(編集・発行) 甲府市議会だより編集委員会 電話%)7054甲府市議会事務局 昭和46年8月1日 第 10 号

TOPE TOPE

6月定例会日程

6月29日 開会、所信表明、提案理由 説明

7月2・3・5日 — 般質問 7月6・7日 各部常任委員会 7月8日 各部常任委員長報告、 助役 查委員、固定資産審查会委員選任

無公害都市《を宣言 新助役に木下氏きま

芸切の

نظ

党)山口茂申(中政クラブ)武川和好 清富(清心会)秋山慎次郎(同)山本清(清風会)長瀬正左衛門(同)渺辺儀市(新政会)樋口精一(社会党) 堀内光雄(公明 害都市宣言を決議しました。なお一般質問は、七月二、三、五日の三日間 にわたって行なわれました。 各会派の質問者は、 **書防止条例などいずれも同意または市長提案とおり可決し、付加価値税導入反対、保険医総辞退に関する意見書提出を決め、無公** 行なわれたほか、市長提出の議案十七件、諮問一件、報告五件、議員提案三件について審議しました。その結果、助役の選任、公 改選後初めての定例会は、六月二十九日から七月八日まで十日間にわたって開かれ、冒頭河口市長による就任後初の所信表明が (共産党) の各氏でした 清水

的権利である。 ととは、すべての市民の基本

しかし、恵まれた自然と市 する。

有し、この権利は公害によ って侵されてはならない。 文化的な生活を営む権利を すべての市民は、他人の

他都市に 牛活環境を侵すような行為 権利を尊重し、自然および 先がける

三すべての市民は、自ら快 め、公害の防止と絶滅を図 適な牛活環境の維持につと をしてはならない。 昭和四十六年七月八日

民の健康が、公害によって侵

健康で文化的な生活を営む を図るため、次のことを確認 し、人間優先による市の繁栄 し、ことに無公害都市を宣言

、すべての市民は、健康で

P 河 市長

生活優先市政を推進

害防止に万全を期します。

化の年齢を六十五才を目標に順

歩き

聞き

払いを改める。また、寝たきり 次引き下げ、医療費の本人窓口

済をささえる市民のために勤労 老人に暖かい配慮を、さらに経

対策は、市民の生活が安全、 具体的施策、すなわち生活環境 ピルミニマムの 実現 をめざす ある。従ってこれに立脚したシ 響画する

ことが民主的な

市政で のいずれを問わず、広く市政に べての市民が世代、性別、職業 た施策の推進であって、す 標は人間尊重を 基調とし 回数の増加を図り、日常生活に り、清掃部門を独立し収集区域 公園整備、中央国売市場による その他河川美化、玉諸公隣等の 苦情のない町づくりを行なう。 の拡大、収集方法の改善、収集 掃事業は上町焼却場の完成によ 道を市街化区域全域に広げ、清 保健環境整備のため公共下水

な牛活と 美しい 自然を 確保

甲府市議会は、市民の快適

山市長 の所信表明

政の推進」であります。その指 な井活社会を築く「生活優先市 市民の健康と安全を守り、豊か のようなものであります。 行ないましたが、その大要は次 P長は市政に対する所信表明を 六月定例会の第一日目、河口 泂 準をもつ公害条例制定により公 言、本市の実情に即した規制基 ら市民を守るため無公害都市宣 車歩道の区分、買物道路、公害か に利用される生活関連資路の舗 を満たすため、市道及び公共的 保健、能率、快適の四つの条件 装整備、交通安全対策としての

実、老人対策として医療費無料 子手当などの福祉手当の増額充 育所への助成、児童、助産、母 中心として保育所建設、民間保 祉対策は、老人と児童の福祉を に助成を図るとともに、社会福 地造成分譲、中小企業社宅建設 進、公社による勤労者向住宅用 ざす住宅建設新五か年計画の推 ターを完成させ社会教育の拠点 の計画的建設と私立幼稚園に対

以下質問の大要は次のとおりで「やかな団体である。私は革新市長」たが、政治行動の一貫性について

姿勢と施策を明らかにした所信表|宣言を決議しました.

6月定例会

意し、

議員の中から選ばれる監査 | て閉会しました。

要な人事案件が提案され、議会は 朗氏を共産党議員を除く多数で同 飯田米太郎氏の後任助役に木下勝 議会最終日の七月八日には、重

各般にわたって活発に行なわれま | モデル的な規制基準を設ける。 表明の中身、長期総合計画との関一めに広報特別号でPRする。 各会派の質問も政治姿勢、所信 一、公害防止を市民運動とするた 公約問題など新議員を中心に ような決意が述べられました。

二、先進都市の基準を下回らない

な子算措置を行なう。 器の整備、技術員の配置を図る。 三、公害監視体制の強化、測定機

教育文化対策は、公立幼稚園

にするため都市機能の適正配分

会加入を基本姿勢としているので | 矛盾はないか。

とコミュニティづくりを進める

産業振興対策としては積極的

次に市政執行に当たる基本理

市政は、老人医療六十五才無料な一申したので、ご理解願いたい。 苦情の多いでみ処理の整備充実は 九月に清掃部独立 間 生活優先の市政では、最も 間、時差収集、路線収集についてっていきたい はそれにあわせて検討する。 て週一回のところを二回にするな ◇中央卸売市場 いな町づくりをする。夜一であるので検討し、業界と話し合

初定例会で代表質問する新議員

記者会見の席上「公約はとかく他 どの公約を必ず実行する民主的市

◇ごみ処理

市民多数の支持を得た河口

しなければならないという意味で

処理し、収集方法の改善を行なっ

ごみ、上町は一般収集のごみを

る考えをもっている。

覚書・念書については勉強不足

たい。また、施設についても改善

ーションの施設を設ける。

児童、肢体不自田者リハビリテ 社会福祉の核として総合福祉セ 者住宅融資の充実と利子補給、

がら豊かな都市づくりを推進し

ていく。そこで市民生活を便利

ンター建設を完成させ、老人、

無料に

努

老人医 六十五歳

たと聞くが真意を聞きたい。 人がつくるもの」との失言があっ 長と信頼しているが、過日の新聞

答 老人医療費六十五才無料は

市民の願いである。清掃業務の独

る。公約は必ず実行することが政 | 夜間、時差収集及び回数など収集 | っている未買収地約三千坪をまず 選挙の際公約した目標で、任期中 | 立をするというがどのような構想 に実現する姿勢をくすさす努力す | か。さらに清掃業務合理化のため 編成の説得を行なっているが、残 未買収は早期解決

界と覚書、念書を前市長が取り交 解決すべきである。海産、青果業 間 中央倒売市場は目下業界再 て大きな問題だが、市として何ら

かの行政措置をとっているか。

一わしているが、市長はこれを尊重
一指償をとっている。医師会とも話しり、本年度は調査して、四千七年
計画のなかで進める 得者については医療資金貸付けの から市民に影響があり、特に低所

方法の改善を図る考えがあるか。

答

上町の清掃工場が来年三月

低所得者には貸付 ◇保険医総辞退 間 保険医総辞退は市民にとっ ◇農道舗装

答 総辞退は国民医療確保の上 | 街化区域内の生活道路は市道でな | で地元の協力を願いたい。市街化 であるが、任期中にできるか。市一槐利関係など複雑なものがあるの くても全面舗装するのか。 間 農道舗装は市長の重点旅策 度から順次舗装を推進する。ただ 答 農道舗装は大きな仕事であ | 利用の多いものから効率化五か年 | とも話し合い、 利用の高い 区域の市道以外の道路についても 順 VZ 推

職員の計画採用をする。職員組合 四月に定典異載を行なうようにし する。またさみだれ人事はさけ、 となって市民に尽す体制づくりを 材適所主義を貫ぬき、職員が一体 企

3

消費者対策、一世帯一住宅をめ

満場一致で決め、さらに公害防止一あります。 委員に浅川朝治郎氏(清心会)を

会教育センター、児童文化セン 域の核となる公民館の建設、社 の移転強化、社会教育対策と地 図る。また、市立甲府商業高校 るとともにPTA負担の軽減を 室不足の解消と鉄筋化を推進す する助成、小中学校の新設、教

駅化の実現に努力する。中央卸

業経営の体質改善、甲府駅民衆 装整備、協業、協同化による商

の自主性を保持し、負担区 にとらえていく中で地方自治 念として私は、住民要望を率直 がら広域行政を推進する。 を基盤に相互に機能を分担しな

に農業経営の近代化、農道の舗

売市場の完成により生鮮食料品

窓の先頭に立つ。当面事務、 分の明確化を叫びながら市民要

等の流通改善を図る。中小企業

努め積極的な財源確保を行なう の再配分、超過負担の解消等に

した一部変更はある。

しかし、時代の変化に即応

最後に市政推進の基本は、

話すを柱に 民が参加できるスポーツの振興 として活用を図る。すべての市 とスポーツ公園施設の建設を進 遊歩道を設け動物関の移転促進 育成策として無担保無保証の小 湖、昇仙峡に通ずる緑と太陽の る。観光対策は、史跡、千代田 国母工業団地の産業公園化を図 **祉面に積極的にとりくむ。工業** 振興は、地場産業の育成強化と 口融資制度の創設と労働雇用福

化を有した城下町を大切にしな あります。美しい自然歴史的文 都市づくり施策の 推進で 第二の指標としては、豊かな 事業など都市再開発を進める。 なうとともに泉町土地区画整理 央道北バイパスの促進、周辺道 を図る。 路、循環道路網計画の推進を行 都市基盤整備対策として、中 の市民との直接対話集会を行な

地域とは、関係住民の福祉向上 甲府地区開発区域四町一か村の めます。 運営を市長職員一体となって進 内体制の整備を行ない、市民と できる 市政の樹立を図る庁 を解決するため、すぐ 対応 い、この対話の中から、これら 手をつなぎ、明るい公正な市政

を独立させ清掃行政の万全を期し|するかどうか明確にしてほしい。|し合っているが、緊急の措置とし 上町は一般収集のごみを | えない場合は土地収用法を適用す | ◇公害防止 |門で対策を検討中であり、やむを | 万全の診療体制をとっている。 答 未買収地については担当部 | て市立病院の医局の協力を得て、 うがどうか。 |付けに乏しい。厳しい具体的措置 がないと公害防止はできないと思

条例が示されているが、予算の裏一定と並行して予算をつけたい。 間 無公害都市宣言、公害防止 る。条例制定により規制基準の設 予算の裏付けする 企業者の意識の高揚がねらいであ 答 無公害都市宣言は、市民や

合える制度の確立と今後の人事の 主化を図り、職員組合と十分話し あり方についてはどうか。 間 人事行政について庁内の民

◇革新市長

今定例会は、河口新市長の基本 | 条例の制定とあわせて無公害都市

基本的には 加入姿勢

いくが、反する場合は住民自治確 民福祉につながるものは尊重し

答 自民党政策については、市

この決議に対し、市長から次の

|四、これらを実現するため、必要

十八万市民の健康を守り、豊かな

は一層

これを継続していく

決意 約束した革新市長会加入問題につ 当選されたが、選挙前に社会党と 問わない庶民大衆から支持されて◇社会党との関係 いて明確にされたい。 答 政策は保守・革新を問わず 間 河口市長は、保守・革新を|議員各位の理解を得て対処する。 間選挙前の社会党との協定で 支持・協力を堅持

治的空白時代のもので、それなり

秋山市長を推したことは私の政

続いて二つの意見書提出を決め。革新市長会は協議会で、市民福祉「選挙で秋山前市長を推し、秋山自 生活社会の建設のため努力する。 か。また、市長は四十三年の市長 についてどうするか研究するゆる 民党市政のプレーンの一人であっ いるが、社会党との支持協力関係ととに満足している。 反自民の姿勢を緊持すると言って┃になる市政であったので支持した の姿勢があり、秋山市政二か年余 ◇長期総合計画 他の革新政党とも協調していく。 の実績をみても、市民福祉のため 社会党とは協力関係を堅持し、

得ているので忠実に実行していき けた長期総合計画はどうなるのか 政を継承しないといっている。 た長期総合計画は、議会の議決を 市政の特色はどう折り込むのか。 としては尊敬しているが、秋山市 忠実に実行したい 間 市長は、秋川前市長を個人 答 前市長が最大の仕事として手が またいくつかの公約をした河口 秋川前市長のもとで作成し

建設、清掃行政の充実、スポーツ の年齢引下げ、総合福祉センター **扱興の五つは推進する。** とした牛活侵先、老人医療費無料 〉国県との関係 私の施策である人間尊重を基調

を柱に、市民一人一人と血の通

歩き,"明き"

「話す」のこう

県政に協力

と市長の対話の日の設定、多勢 できる市政、を推進する。市民 せる市政、どんなことでも相談 った市政、だれとでも気軽に話

することが望ましいと思うが、特 間 地方自治体は財政的に自立

はどうか。 あわせになると思うが市長の考え する市政を行なうことが市民のし しい財政状況では、国や県政に通 別の税外収入がなく一般財源の乏 答 地方自治体の自立制、

するなかで、県政も市政に全面的 的な働きかけもする。県政に協力 制は堅持するが、国県に対し積極 に協力してもらうようにしていき

答 選挙人事は一切しない。適

議会選出の監査委員に浅川朝治

(浅川氏の略歴) 甲府市千

例であります。 調とした施策推進のうち、生活環 の大きな柱であり、人間尊重を基 ひるがえって、本市における公

ないと規定されているが、事業体

べきだと思うがどうか。

になる。

らかじめ市長に届出なければなら

情の悪化からオキシダント発生な 発生していないとはいえ、交通事 他都市のような大きな公害はまだ 害の状況をつぶさに眺めるとき、 活を妨げているばかりでなく、自 的には地域住民の健康で快適な牛 **臭等が顕在化してきており、局地** 汚水・工場排水・またはごみの不 ど大気汚染や各戸から排出される 法投棄などによって水質汚濁や悪 が市に届け出た場合、それを広く一、今後ますます増える傾向にあ

であります。 姿勢を質すなど慎重に審査したの は、特に市長の出席を求めてその 質疑の主なものは次のとおりで

止に関し必要な事項を定めようとあります。 する条例制定は、市長の所信表明一、この条例が市独自のものであ

豊かな経歴をもつ

賛否

討 論 後

多数 木 助下 役

で同

意

市民の健康で文化的かつ快適な

算と人的配置を要望

が憂慮されるような現況を呈して 然環境そのものを破綻させる危险

そとで付託された民生部委員会

公害条例を審議する民生部委員 と考えている。

の中で処理していくととになる。 いので、との点については市行政|よう強く要望して、公害防止条例 公害対策担当の人的配置につ「く可決したのであります」 永年勤続議員で表彰 渡辺氏と退職した神藤氏

第四十七回全国市職会議長会定 | 與総会及び第三十七回関東市議会

長の誕年後、初の定例会をまって 幾多の懸案事項を処理してきた。 さらに秋山市政のもとでは、長 中央倒売市場問題の解決など

十九年退職、川梨県信用保証協会 | 局長を助役に選任することは、革 | 長を膝任、退職してからは山梨県 | れるので、後任として長沢孝雄氏 新市政をめざすと言う市長の所信。「信用保証協会に脱職、さらにまた」を選任したい旨の議案が市長から も成熟され、将来の発展を約束さ一ついて次の力氏の諮問があり、原 ある。年令も六十二歳と人間的に た、人権擁護委員候補者推せんに と行政事務万般にわたって堪能で 潜場 一致で同意を決めました。ま 政治的分野の国民協会事務局長な さらには公営企業としての電気局 | 後藤宗平氏が七月十六日任期が切 は団を代表して賛成します。 適任であります。よって保守系護 れる甲府市の助役としてはまさに 案通り決めました。 定例会最終日に提案され、議会は (長沢氏の略歴)

同意を求める議案が提出され、計一役員、六十二歳。

下勝朗氏を助役に選任したいので

本会議において河口市長から、木|部長、教育長、電気局長を経て三|明白である。現職の宦民協会事務

論も行なわれましたが、議会は費一マ反対討論=市長は本会議で政 | と相反するところであり、このよ

新監査委員に浅川氏

浅川監查委員

監査委員は、前議会で選ばれてい
▼費成討論=今の政治は若さが

なお、議員の中から選出される | には共産党議員団は反対する。

意することに決定いたしました。|職にあったものを助役とすること

ない。自民党への政治献金機関の うな市長の政治姿勢には一貫性が

た飯島政則氏が本年四月八日死亡。求められており、河口新市長に別

されて以来、今まで欠員となって

固定資産委員

幅広く豊かな経歴を

に長沢孝雄氏

人権擁護委員も決まる

され、議会は満場一致をもって同一清心会所属、農業、五十七歳。 から定例会最終日の本会議に提案 期、予算特別委員長、農業委員、 郎氏の同意を求める議案が、市長、塚一丁目3番28号、市議会議員

一務所長をはじめ社会部長、教育長 は、住民に接する第一級の地方事 適切である。木下氏は県庁在職中 もつ木下氏を助役に迎えることは 待するところが多い。その新市長 六月室例会最終日の七月八日の り。地方事務所長、社会・厚生各 り、旧天野派の幹部であることは 場、平和道り貫通、中央保育所の廷 身をひかれたのであります。 |寺町六||三番地の一。山梨師範本||る木下氏は自民党に政治献金を||者として、その重資を果たし、曙||発展に尽力されましたが、河口市 科卒、塩山小訓導から山梨県庁人 | 行なう 国民協会の 事務局長 であ | 野市長当 時の 残されたし尿 処理 |年八カ月にわたって、市長の片腕||市長の遺志を継いで百十一億にの と、新市長誕生まで市長職務代理 | て議会の議決を得るなど、市政の |助役に就任以来、七月八日まで二||場建設、道路舗装などをはじめ、 |となり、さらには秋山市長亡きあ||ぼる昭和四十六年度予算を編成し |誕年と同時に、市長に迎えられて | 期総合計画の樹立、上町ごみ焼却 昭和四十三年十二月、秋山市長 飯田前助役

甲

役 助

成多数で同意するに決定いたしま。

治的空白期間における政治行動に

要旨は次の通りです。

(木下氏の略歴) 甲府市長松 ている。今回同意を求められてい した。なお、討論の反対、賛成の一ついて反省していると言い、基本

的には自民党の悪政と斗うと述べ

副会長、浴場業、五十八歲 等強糸中退、北策地区自治連合会 北新一丁自1番19号、旧制京都高 甲府市 出します。 要望いたします。 右 自厚大内 治生蔵総 昭和四十六年七月八日 地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提

間定資産評価審査会委員のうち「健男、村松功太郎 内藤美茂、中村操、 井上美穂、大塚国夫、笠井寿太郎 古屋

大大大理大大臣臣臣臣臣

りながら、たとえばどみ焼却場・|市民に知らせる公開の義務規定が|る公害に対処するには、現在の公|いては、公害の発牛状況・届出件 ると思うがどうか。 これらに対して当局から、

も戒しめる規定がないのはどうな一、規制基準を上回って事故(公 ど市自体の施設を規制し、自らを | 図からも設けるべきだと思う。

害)が発生した場合はもちろんだ

- 娘対策の一環として注目すべき条|る事業を行なおうとする者は、あ|た場合は、事業体側からも報告さ|うとするものであるので、市の施|考えてはいない。今後、実情に応 し尿処理場・下水道終末処理場な|ないが、市民の注意換起という意|害対策担当の人的配置は弱体であ|数からみて事務部門は現体制で充 一、公害を発生させるおそれのあ | が、基準内であっても事故があっ | た部分を横出しして規制していこ | 技術者一、二名でこと足りるとは せる義務規定を設げ、万全を期す | 設はもちろん、県内にある国の施 | じた配置をしたい。 設も同様に県の規制を受けること 一、市条例は県条例からはみ出し | 名採用の目途をつけている。ただ ないので、水質検査の面に一、一 分である。しかし技術者が現在い との答弁がありました。

県とのバランスという点も考慮し う前提に立てば必要なことなので 間に戸惑いなどの問題が生ずる。 しかし、市民に周知していくとい ては、でき得る限り強い姿勢で臨 の義務を規定するとなれば、企業 に加えて職域からも選出して増員 っているので、県条例にない公開一ついては現状の地区代表二十四人 外のものを規制していく立場をと|姿勢を質したのに対して、前者に 一、このように本市は県規制の枠 度の充実や規制基準作成に対する ○町名変更 (元紺屋町自治会長) む旨の答弁がありました。 するよう考えており、後者につい 委員会はさらに監視モニター制

法上からも規制することはできな | は | 日も早く配置して万全を期す て、県と協議する中で配慮したい | 気汚染・水質汚濁等について定期 、規制基準の枠内であれば、本 には予算化すべきこと、技術職員 制定を甲長提案のとおり、 的に研究していける体制を次年度 委員会はこれらを踏まえて、大 異識な 行なわれました。

▽原案可決 第47号 町の廃止及び編入 ▽同十五年以上=渡辺儀市氏 提出議案と その結果

の一部設正

本市からは次の二氏が栄ある表彰 規約の一部改正 会議員表彰が行なわれましたが、 第49号 甲府地区開発推進協議会 議長会定期総会で、永年勤続市議 第48号

請負契約の変更契約締結

反対する意見

活であり、中小商工業者には、 る方向で準備を進める方針を明らかにしております。 た。また、大蔵省においても、今後の財源確保のために実施す 基づき、付加価値税の導人を了承し、 答申の作業に 入りまし 生産、

流通の

各段階で

商品に付

毎月付加価値税だけを申告する。

社会問題となっております。

周知のとおり市民は、公害、職業病、労働災害、交通事故等

明らかであります。

いても、低い診療報酬でオーバー労働を強いられている実態は によって医療機関にかかる機会が多くなり、一方医療機関にお

よって、政府及び関係機関は医療行政に混乱を招いた実情を

ず、一カ月後には保険医の辞退が行なわれております。 の大部分が辞退し、本県においても県知事の説得にもかかわら

加ざれた価値に課税され

去る五月三十一日、日本医師会の指令により、全国の保険医

関する意見書

保険医総辞退に

との事態は、市民の健康保持に重大な影響を及ぼし、大きな

拍単をかけ、市民生活を圧迫することになります かりでなく、一般市民にとっても負担は増大し、 ことになり、 このような 付加価値税が 導入される ことになれ

昭和四十六年七月八日

甲府市議会

します。

甲府市議会

ラスされれば幸いです。 **虚な順いが市政のうえに明るくプ** ました。まず足もとからという識

大 蔵 大 臣

請 願

採択されたも

・山下金代)

○歩道橋の設置(西中PTA会長 | ○歩道の設置(西中PTA会長・

軍人会会長・一瀬勝男) ○軽自動車税等の減免(甲府傷害 【総務部委員会】

か

森自治親交会会長・村松松之甫は|原豊三郎ほか)

£ 婦人甲府支部かえで班・新津とも 〇ダストボックス廃止反対等(新 【民生部委員会】

一ほか)

上水道促進期成同盟代表・清水精 D給水区域への編入(上積烬寺町

【水道部委員会】

(須藤知徳ほか)

会会長・青木松三)

(湯村三丁目・中田忠夫ほか)

継続審査するもの

場で早川議長から表彰状の伝達が「号線) を受けられ、六月定例会の本会議第50号 市道路線の認定(里吉 ▽勤続二十年以上=神藤昇氏 第53号 |〇市道編入及び舗装(山宮町土木 | 藤竹治郎ほか) 第52号 市道路線の認定(古府中 第51号 町一号線) 【建設経済部委員会】 市道路線の認定(中、

第54号 甲府市国民健康保險条例 第59号 昭和46年度甲府市南西住 甲府市公民館使用料条例 選挙区の設定及び選挙区でとの委

宅団地造成事業特別会計補正予算 員定数に関する条例の一部改正 第58号 甲府市農業委員会委員の

付加価値税の導入に

編

集

後 記

付加価値税は、昭和二十三年に実施された「取引高税」の復 税制調査会は、六月二十二日基本問題小委員会の最終報告に

三、かけ売りなどの場合、税を先払いしなければならない。 一、帳簿の記入が強制される。 間接税のため国税犯則取締法に基づく強制調査、刑事則が

は、中小商工業者の営業は困難と混乱を招き死活問題となるば 付加価値税導入を中止するよう強く要望するものであります。 として提出された付加価値税反対の請願を採択するとともに、 右、地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提出 よって甲府市議会は、今次六月定例会に市民と商工業者の声 物価高に一層

を確保するよう、甲府市議会は十八万市民を代表しここに強く すみやかに保険医総辞退という最悪な事態を収拾し、国民医療 直視され、福祉国家の柱である国民皆保険制度の主旨からも、

層の

で

叱

正

を

お

願

い

い

た

し

ま

す

。 まいりました。一定の型にはまら 六月繭会から実施することになり など、襟を正した姿勢が望まし 機会に、食券の廃止、時間の敵守 ◆新しく 職会が 構成され たのを ないように、常に新鮮さを失わな 深い関心が寄せられ、いろいろの た。幸いに市民の多くの方々から いようにと努力しております。 助言などいただきながら成長して 五月誕生してから二年になりまし いという各派一致の申し合わせで

○道將整備(東地区自治連合会長)○市道編入(下今井町自治会長・ 委員長・福島泰男ほか)

【建設経済部委員会】

○市道編入並びに舗装整備(万寿)○市道編入(大津町自治会長・石 第62号 監査委員の選任 ▽同意に決定 第60号 昭和46年度甲府市 計補正子算(第一号) 助役の選任 般

〇付加価値税反対(甲府民主商工 | 〇道將舗接(青葉町目治会長・三 | 日西部境境整備促進期成同駅会長 | ▽諸間のとおり決定 〇市道編入並びに整備(北新二丁 | 委員の選任 第63号 固定資産評価署查表員会

の推薦 諮問第1号 人權擁護委員候補者

・大塚喜浩)

陳

▽報 郵第2号 報第1号 昭和45年度印府市 会計予算繰越 昭和45年度甲府市中央

〇総合 福祉 センター早期 建設等

(甲府市老人クラブ連合会長・内 【民生部委員会】 採択されたも

倒売市場建設事業特別会計予算繰 報第3号 昭和45年度甲府市水道

|第55号 甲府市公害防止条例制定 | 報第4号 財団法人甲府市開発公 第56号 甲府市小規模企業者小口 社の経営状況の報告 食会の経営状況の報告 事業会計予算繰越 報第5号 財団法人甲府市学校給

第57号 資金融資促進条例制定

甲府市観光施設条例の

次期定例会は 九月です

し、暑中お見舞申しあげます。 さんので健康を心からお祈りいた 市民の皆

民の傍聴も多く、六月定例会はい いうことで市政に関心を寄せる市 表明するということと、新議会と ◆河口市長が、初めてその所信を

ろいろの角度から酷害も吹き飛ざ ◆一甲府市議会だより」も一昨年 傍聴をおすすめいたします。 熱心な討議が行なわれました。 私たちの最も身近かな市議会の